

船舶事故調査報告書

令和4年10月26日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和元年7月12日 08時10分ごろ
発生場所	京浜港東京第2区竹芝棧橋 東京木材投下泊地防波堤西灯台から真方位308° 3.4海里付近 (概位 北緯35° 39.1′ 東経139° 45.8′)
事故の概要	旅客船ヴァンテアンは、着棧中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和4年5月9日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	旅客船 ヴァンテアン、1,717トン
船舶番号、船舶所有者等	131933、東京ヴァンテアンクルーズ株式会社
乗組員等に関する情報	機関長、一級（機関）
負傷者	なし
損傷	機関室の船底外板に破孔
気象・海象	気象：天気 雨、風向 南、風速 約3m/s、視程 約3km 海象：波高 約0.1m
事故の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか4人が乗り組み、東京湾内クルーズで客を乗船させる目的で、京浜港東京第2区の竹芝棧橋に着棧していた。</p> <p>機関士は、機関室内を巡検中、同室内のビルジが多いことに気づき、同室下部の船底外板上を清掃したところ、船底外板に破孔を生じて浸水していることに気付いた。</p> <p>本船は、潜水士を手配して破孔の位置を確認し、破孔の上下に鉄板を当ててボルト止めされたのち、水中ボンドの塗布が施された。</p> <p>本船は、本事故発生の約3か月後に入渠し、船底外板の板厚を計測したところ、破孔周辺の板厚が減少していたが、破孔周辺以外は板厚が十分な状態であった。</p> <p>機関長は、ナット等の異種金属が機関室の船底に落下して、同室の船底外板に電気腐食を生じたのではないかと本事故後に思った。</p> <p>本船は、毎年の入渠において保護亜鉛の衰耗状態を点検し、保護亜鉛が3割衰耗していれば、交換していたが、その記録は残っていなかった。</p>
分析	<p>本船は、着棧中、電気腐食により機関室の船底外板に破孔を生じたことから、同破孔から海水が流入して機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>電気腐食は、機関室の船底に落下したナット等の異種金属により発生したものと考えられるが、同腐食に至った状況を明らかにすること</p>

	はできなかった。
<b>原因</b>	本事故は、本船が、着棧中、電気腐食により機関室の船底外板に破孔を生じたため、同破孔から海水が流入して機関室に浸水したものと考えられる。
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機関部乗組員は、定期検査等で入渠した場合には、機関室の船底外板上を清掃し、金属等の異物がない状態を確保するよう心掛けること。</li> <li>・ 甲板部乗組員は、入渠した際に船体付き保護垂鉛の衰耗状態を点検し、必要があれば交換して記録を残すこと。</li> <li>・ 船底外板は、船齢を考慮した上、板厚を計測し、必要があれば修理すること。</li> </ul>